

混沌とした中から

懐かしいパソコン雑誌(その2)

予定外の2回目です。連載するつもりはなかったのですかいろいろかきたいことがあるもので。

前回ソノシートのお話を書きました。4k BASICですが、これについてどう書けばいいのか考えてしまいます。というのは、まずBASIC（昔プログラムというところとBASICが中心で、今はVBが残っていますが多少違いますし）について書かないと話がすすまない気がするし、CPUの話も必要な気がするし。といってもそれらについて書いていると本来の懐かしいパソコン雑誌から離れてしまいますので、一切割愛してしまうことにします。

ではソノシートによるBASICですが、実はこの頃のコンピュータ（1ボードコンピュータというもので、1枚のボードに入力のスイッチや出力のLED（数字の8の形をしたもので数字と必要なアルファベットだけ表示ができた）だけが付いたもの）には外部記憶装置が付いていなかったの、自分で作る必要がありました。そのため、ASCII創刊第3号の77年9月号の特集では、メモリ増設界などのほかにカセットインターフェースの回路の作り方が載っています。以前も書いたことがありますが「カンサスシティスタンダード」です。回路の説明や回路図、作り方が終わってはじめてBASICの使い方の説明ということになります。

パソコン雑誌のこのような回路図の掲載はこの後だいぶ長く続きました。1ボードマイコンの時代（そういえばこのころコンピュータは自作するものも多かったです）からPC-8000の登場によるパソコンの時代になるのですが、そうなるまでまだボードの自作は多かったように思います。それにはいろいろ理由があると思いますが、1つにはトランジスタやIC、コンデンサ、抵抗などを売っているショップが適当にあった（特に秋葉原のショップの宣伝そういうものが中心で、ショップ自体もたくさんありました）ことがあると思います。また、いろいろなものがまだ高価でラジオやアンプなどの自作する人が多かったこと、それ以上にメーカーのボードが高価であった事があげられます。確かに回路自体も単純で作りやすかったこともありますが、自作ボードとして羽ももちろんメモリボードもありますが、ゲームをするときのジョイスティック（そういえば一時期パソコン（apricotにも）のインターフェースとしてジョイスティックのポートが付いていたことがありました、接続できるものがなくて使えませんでした）、温度計などがありました。大分あとになりますが、私も1989年ごろにPC-9801VMの拡張ボードとしてアナログ信号をデジタル変換するボードを作ったことがあります。

そういえばASCIIの創刊号（77年7月号）の本の紹介に「コンピュータ犯罪」という本が紹介されています。紹介された事例はアメリカの高校生が電話会社のゴミ箱を数年にわたってあさり、その資料から在庫管理しているコンピュータの全貌をつかみ、プッシュ式の電話でコンピュータに出荷の指示をしてその資材を受け取りにいったという詐欺事件です。他にもいくつかの事例と対処方法が書いてあったようですが、システムがコンピュータ化されることに対する警告が発せられていたというのは1つの発見でした。あんまりか環境は変わっていないのかなという気はします。紹介されていた元高校生は出所後コンピュータ犯罪防止のコンサルタントをしていたそうですから、先駆者といえそうですが、決定的な対策がいまだにないというのは考えさせられました。

(次回続く)

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 7月17日号

特集 「個」から始める電機の復権

→日本の工学部を志願する高校生の数は10年前に比べて4割減となっている。近頃の若者は技術に関する関心が薄らぎいわゆる理科離れだが、これは全世界の課題。その中でも「電気」が深刻。待遇改善を含めこの影響が企業に及ぶ前に対策が必要。技術者を取り巻く環境は好転しつつあるが技術者不足が深刻。

○日経パソコン 7月10日号

特集 賢者のリカバリー&バックアップ

→パソコンはいつ何時不調に陥るかわからない。不調になってから嘆いても遅い。そのためのバックアップ。ハードは安くなっているのだから大丈夫と思っても対策は必要。さあどうするか。